

1

問題のページへ

右図において、 $AB=4$ 、 $AC=3$ 、 $BC=5$ より、

$$\angle BAC = 90^\circ$$

また、 $\angle ACD = 90^\circ$ より、

$$CD = CF = \sqrt{4^2 - 3^2} = \sqrt{7}$$

さて、三角錐 V の底面 ABC を xy 平面上にとり、 $A(0, 0, 0)$ 、 $B(4, 0, 0)$ 、 $C(0, 3, 0)$ とする。さらに、 V のもう 1 つの頂点を $P(x, y, z)$ ($z > 0$) とおく。

すると、 $PA = PB = 4$ 、 $PC = \sqrt{7}$ から、

$$x^2 + y^2 + z^2 = 16 \dots\dots\dots, \quad (x-4)^2 + y^2 + z^2 = 16 \dots\dots\dots$$

$$x^2 + (y-3)^2 + z^2 = 7 \dots\dots\dots$$

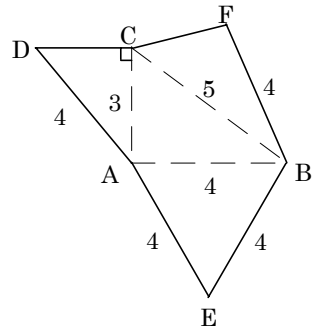
より、 $8x - 16 = 0$ 、 $x = 2 \dots\dots\dots$

より、 $-4x + 3y = 1$ となり、 $x = 2$ を代入すると、 $y = 3 \dots\dots\dots$

を $x^2 + (y-3)^2 + z^2 = 7$ に代入すると、 $z^3 = 3$ となり、 $z > 0$ から $z = \sqrt{3}$ である。

以上より、三角錐 V の体積は、

$$\frac{1}{3} \cdot \left(\frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 4 \right) \cdot \sqrt{3} = 2\sqrt{3}$$



[解 説]

底面が直角三角形であることに着目し、座標系を設定して処理しています。この解法がいちばん確実でしょう。

2

問題のページへ

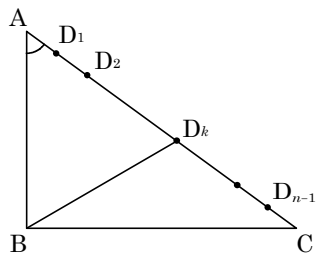
- (1) 条件より, $AD_k = \frac{k}{n}\alpha$ となり, $AB = l$ とおくと,

$$\cos A = \frac{l}{\alpha}$$

ここで, $\triangle ABD_k$ に余弦定理を適用して,

$$\begin{aligned} (L_k)^2 &= l^2 + \left(\frac{k}{n}\alpha\right)^2 - 2l \cdot \frac{k}{n}\alpha \cdot \frac{l}{\alpha} \\ &= l^2 + \frac{\alpha^2}{n^2}k^2 - \frac{2l^2}{n}k \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって, } S_n &= \sum_{k=1}^{n-1} (L_k)^2 = \sum_{k=1}^{n-1} \left(l^2 + \frac{\alpha^2}{n^2}k^2 - \frac{2l^2}{n}k \right) \\ &= l^2(n-1) + \frac{\alpha^2}{n^2} \cdot \frac{1}{6}(n-1)n(2n-1) - \frac{2l^2}{n} \cdot \frac{1}{2}(n-1)n \\ &= \frac{(n-1)(2n-1)}{6n} \alpha^2 \end{aligned}$$



- (2) (1)の結果より,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(n-1)(2n-1)}{6n^2} \alpha^2 = \frac{\alpha^2}{6} \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 - \frac{1}{n}\right) \left(2 - \frac{1}{n}\right) = \frac{\alpha^2}{3}$$

[解 説]

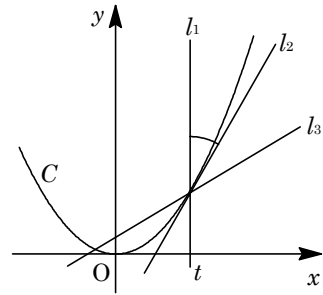
辺 AB の長さを設定するときには不安がよぎりますが, 大切なのは, 楽天的に計算を進めることです。

3

問題のページへ

- (1) まず, $l_1: x=t$ の方向ベクトル \vec{u}_1 は, $\vec{u}_1 = (0, 1)$ とおくことができる。

また, $C: y = \frac{x^2}{4}$ より $y' = \frac{x}{2}$ となるので, 点 $(t, \frac{t^2}{4})$ における接線 l_2 の方向ベクトル \vec{u}_2 は, $(1, \frac{t}{2}) = \frac{1}{2}(2, t)$ から, $\vec{u}_2 = (2, t)$ とおける。



すると, l_1 と l_2 のなす角 θ は,

$$\cos \theta = \frac{\vec{u}_1 \cdot \vec{u}_2}{|\vec{u}_1| |\vec{u}_2|} = \frac{t}{1 \times \sqrt{4+t^2}} = \frac{t}{\sqrt{4+t^2}} \dots\dots$$

- (2) 直線 l_3 の方向ベクトル \vec{u}_3 を, $\vec{u}_3 = (1, m)$ とおくと, l_2 と l_3 のなす角が θ より,

$$\cos \theta = \frac{\vec{u}_2 \cdot \vec{u}_3}{|\vec{u}_2| |\vec{u}_3|} = \frac{2+tm}{\sqrt{4+t^2} \sqrt{1+m^2}} \dots\dots$$

より, $\frac{t}{\sqrt{4+t^2}} = \frac{2+tm}{\sqrt{4+t^2} \sqrt{1+m^2}}$, $t^2(1+m^2) = (2+tm)^2$ となり,

$$4tm = t^2 - 4, \quad m = \frac{t^2 - 4}{4t} \dots\dots$$

よって, l_3 の方程式は, $y - \frac{t^2}{4} = \frac{t^2 - 4}{4t}(x - t)$, $y = \frac{t^2 - 4}{4t}x + 1 \dots\dots$

- (3) より, l_3 は t の値によらず, 点 $(0, 1)$ を通る。

- (4) より, l_3 は $y = mx + 1 \dots\dots$ と表せ, と連立して,

$$\frac{x^2}{4} - mx - 1 = 0, \quad x^2 - 4mx - 4 = 0 \dots\dots$$

は異なる 2 つの実数解をもち, これを $x = \alpha, \beta$ とおく。すると, l_3 と C の 2 つの共有点は, $P(\alpha, m\alpha + 1), Q(\beta, m\beta + 1)$ と表され,

$$\begin{aligned} PQ^2 &= (\alpha - \beta)^2 + (m\alpha + 1 - m\beta - 1)^2 = (1+m^2)(\alpha - \beta)^2 \\ &= (1+m^2)\{(\alpha + \beta)^2 - 4\alpha\beta\} = (1+m^2)\{(4m)^2 + 16\} = 16(1+m^2)^2 \end{aligned}$$

これより, 線分 PQ の長さが最小になるのは $m = 0$ のとき, すなわち $t > 0$ に注意すると, から $t = 2$ の場合である。

[解 説]

いろいろな解法が考えられる問題です。(4)では, (3)の結果を用いて, l_3 の式をいったんリセットしています。

4

問題のページへ

- (1) まず、 $OQ = AQ$ より、 $Q(x, y)$ は線分 OA の垂直二等分線上にあるので、

$$x = \frac{a}{2} \dots\dots$$

また、 $OQ = PQ$ より、 Q は線分 OP の垂直二等分線上にある。そこで、 OP の中点の座標 $(\frac{\cos\theta}{2}, \frac{\sin\theta}{2})$ と、

$\vec{OP} = (\cos\theta, \sin\theta)$ より、

$$\cos\theta \left(x - \frac{\cos\theta}{2}\right) + \sin\theta \left(y - \frac{\sin\theta}{2}\right) = 0$$

$$x \cos\theta + y \sin\theta = \frac{1}{2} \dots\dots$$

より、 $y \sin\theta = \frac{1}{2} - \frac{a}{2} \cos\theta$ となり、 $0 < \theta < \pi$ から $\sin\theta \neq 0$ なので、

$$y = \frac{1 - a \cos\theta}{2 \sin\theta} \dots\dots$$

よって、 $Q\left(\frac{a}{2}, \frac{1 - a \cos\theta}{2 \sin\theta}\right)$ である。

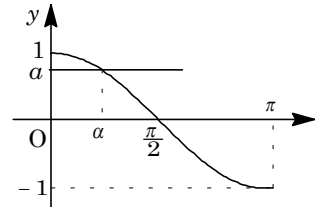
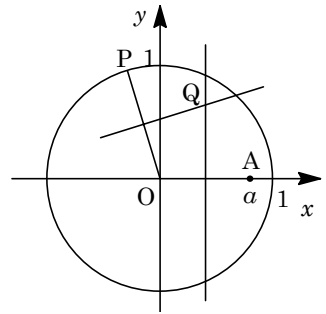
- (2) より、 $y' = \frac{a \sin^2\theta - (1 - a \cos\theta) \cos\theta}{2 \sin^2\theta} = \frac{a - \cos\theta}{2 \sin^2\theta}$

$0 < a < 1$ から、右図のように、 $a = \cos\alpha$ とおくと、 y の増減は右下表のようになる。

よって、 $\theta = \alpha$ において y は最小となり、このとき

$\sin\alpha = \sqrt{1 - a^2}$ から、最小値は、

$$y = \frac{1 - a \cos\alpha}{2 \sin\alpha} = \frac{1 - a^2}{2\sqrt{1 - a^2}} = \frac{\sqrt{1 - a^2}}{2}$$



θ	0	...	α	...	π
y'		-	0	+	
y		↘		↗	

[解 説]

微分の応用についての頻出タイプの問題です。基本手法の確認のために適切な内容です。

5

問題のページへ

$$(1) a_1 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^2 x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{1}{\cos^2 x} - 1 \right) dx = \left[\tan x - x \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = 1 - \frac{\pi}{4}$$

$$(2) a_{n+1} = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^{2n+2} x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^{2n} x \left(\frac{1}{\cos^2 x} - 1 \right) dx$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^{2n} x \cdot \frac{1}{\cos^2 x} dx - \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^{2n} x \, dx$$

$$= \left[\frac{1}{2n+1} \tan^{2n+1} x \right]_0^{\frac{\pi}{4}} - a_n = \frac{1}{2n+1} - a_n \dots\dots$$

(3) $0 < x < \frac{\pi}{4}$ において、曲線 $y = \tan x$ は下に凸なので、
 $0 < \tan x < \frac{4}{\pi} x$, $0 < \tan^{2n} x < \left(\frac{4}{\pi}\right)^{2n} x^{2n} \dots\dots$

を 0 から $\frac{\pi}{4}$ まで積分すると、 $0 < a_n < \left(\frac{4}{\pi}\right)^{2n} \int_0^{\frac{\pi}{4}} x^{2n} dx$

$$0 < a_n < \left(\frac{4}{\pi}\right)^{2n} \left[\frac{1}{2n+1} x^{2n+1} \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{1}{2n+1} \left(\frac{4}{\pi}\right)^{2n} \left(\frac{\pi}{4}\right)^{2n+1} = \frac{\pi}{4(2n+1)}$$

すると、 $n \rightarrow \infty$ のとき $\frac{\pi}{4(2n+1)} \rightarrow 0$ より、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0$

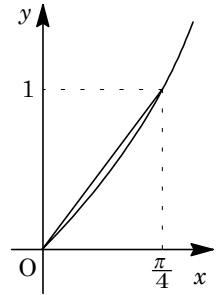
(4) の両辺に $(-1)^{n+2}$ をかけると、

$$(-1)^{n+2} a_{n+1} = -(-1)^{n+2} a_n + \frac{(-1)^{n+2}}{2n+1} = (-1)^{n+1} a_n + \frac{(-1)^{n+2}}{2n+1}$$

$$n \geq 2 \text{ において、} (-1)^{n+1} a_n = (-1)^2 a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{(-1)^{k+2}}{2k+1} = 1 - \frac{\pi}{4} + \sum_{k=2}^n \frac{(-1)^{k+1}}{2k-1}$$

$$(-1)^{n+1} a_n = 1 - \frac{\pi}{4} + \sum_{k=1}^n \frac{(-1)^{k+1}}{2k-1} - \frac{(-1)^2}{1} = -\frac{\pi}{4} + \sum_{k=1}^n \frac{(-1)^{k+1}}{2k-1}$$

$$\text{以上より、(3)から、} \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{(-1)^{k+1}}{2k-1} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ (-1)^{n+1} a_n + \frac{\pi}{4} \right\} = \frac{\pi}{4}$$



[解 説]

細かい詰めがやや面倒ですが、(4)の設問にある有名な級数の値を求める問題です。
 なお、(2)と(3)の設問は並列で、両者の結果が(4)に繋がるという解法をとっています。